

事業所名	ももたろうの郷 さわやか苑
日付	平成19年2月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	① 介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士 ② 介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士
<a href="#">自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)</a>	
<a href="#">評価項目内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)</a>	
事業者のコメントを見る (評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります) ※	

講評 全体を通して(特に良いと思われる点など) ・訪問する時まず、利用者とスタッフのあたたかい信頼関係が目に映った(モップがけをしている人、テレビを見ている人、談笑している人たちとスタッフのさり気ない声かけ…など)。経営母体は医療法人であるが、独自の理念の基、スタッフが穏やかに接し、入居者も自分のペースで自由にゆったりと過ごしておられた。 ・アセスメントを十分に行い、立てられたケア計画を基に料理の好きな方には調理を、掃除の好きな方には掃除を…と自らすすんで活動できる雰囲気づくりや入居者と共にしている作業はその方の身体能力や経験を配慮した支援がされている。 ・家族との連絡も密にとれており、家族はいつでも訪問でき、自由に意見を述べる事ができている。 ・介護職員は毎月一人ずつテーマを決めて勉強会を行い、課題について発表・討議し質の向上を目指している。 ・緊急対応や苦情処理のマニュアルもきちんと作成され、解決・処理が特にしやすいよう工夫されている。 特に改善の余地があると思われる点 改善点は特にありません。 二ヶ月に一度の推進会議を基に、今一層地域・老人会等の交流を期待しています。
---

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。 グループホームの理念を目標に、介護従事者である現場職員は一人ひとりのニーズを適確に把握し、入居者の自由な選択、自己決定を重視した家庭生活、心身機能の維持・向上にむけた支援がされている様子が窺えた。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周や空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。 家庭的な雰囲気の中、利用者がくつろげるような工夫がされている。また、入居者は自らすすんで掃除や調理、食器洗いなどを行い、自分の役割を見出している。この居住空間で生活しているのだという実感がもてるよう支援されている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人の力と経験の尊重やプライバシー保護の為に取り組んでいるものは何か。 アセスメントを十分に行い、立てられたケア計画をもとに、料理の好きな方には調理を、掃除の好きな方にはモップかけを自らすすんで手伝ってもらうなど、その方の能力や経験を配慮しながら支援されている。プライバシーの保護に対しては職員が入室する際には必ず声かけ・了承を得ている様子が窺えた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 年間の目標・課題を決め、自ら研鑽している。また、関連施設と連携をとり、質の向上を目指している。また、事故や体調不良などの緊急対応や苦情処理のマニュアルもきちんと作成され、解決・処理しやすいよう工夫されている様子が窺えた。		